

11 月度木曜例会(2016・11・10)

Minneapolis: An insight into the history and culture

ミネアポリスの歴史、文化、ユニークな方言について講演

ジャスティン バイクラー
Justin Beiklerさん (Minneapolis, Minnesota)



茨木市の姉妹都市、米国ミネソタ州・ミネアポリス市出身のジャスティン・バイクラーさん(写真左)が今回の講演者。ミシシッピー河沿いの多くの湖と川に恵まれた同市の歴史と文化、それにユニークな方言(訛)のほか nice and friendly な人々の気質などについてスライドを使って語ってくれました。

講演に先立ち役員から、茨木市とミネアポリス市の姉妹提携は 1980 年に調印され、2 年後、活動を開始するとともに IIN が発足、会員たちが地道な努力を重ねて 34 年間も people 対 people の交流をサポートしてきている、と説明がありました。ジャ

スティンさんは、そのミネアポリス市出身で、高槻市などで 14 年間、英語の先生を勤めており、「日本に永住するかも」と考えているほどの親日家。自然が好きでハイキング、キャンプ、星の観察などを楽しみ、ウクレレも弾くということです。以下は 2 時間近いスピーチの要約です。

歴史

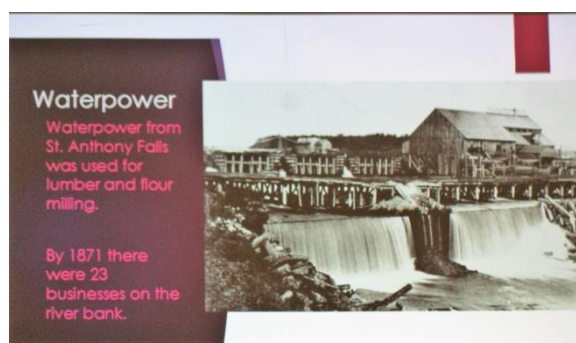
ミネアポリス市の人口は現在 41 万人。米国で 46 番目の都市。それほどの大都市ではないが、大学教育を受ける人が多く全米 15 番目の most educated city に入っており、住民気質は親しみやすい、といわれている。

ミネソタの州都はセントポール市で、同市とミネアポリス市は州内の中心的都市圏をつくっており、「双子シティー」と呼ばれる。

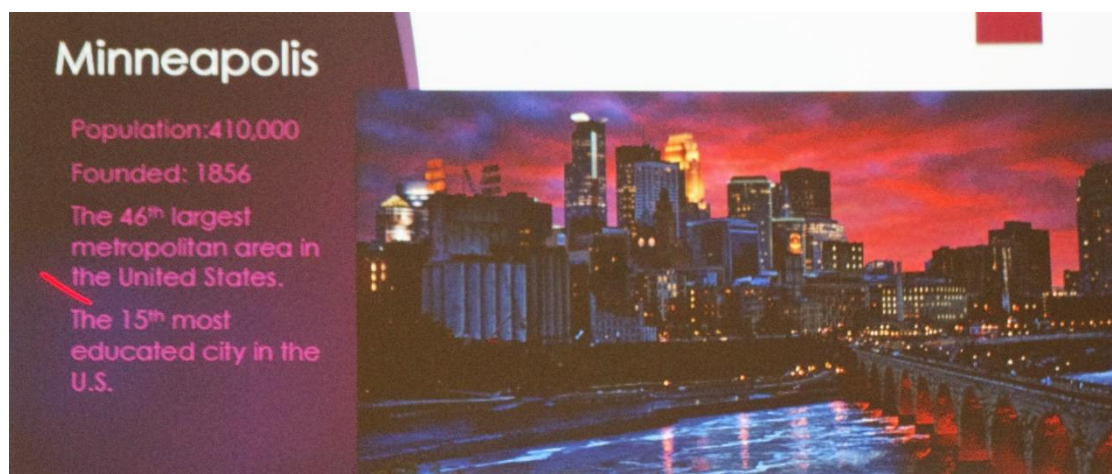
ミネアポリスはミシシッピー河で唯一の滝、セント・アンソニー滝の周辺に発展した。このあたりには先住民のスー族の一派、ダコタ族が住んでいた。彼らの言葉で水を意味する mini と都市を意味する polis からミネアポリスと名づけられた。



名前の通り、多数の湖と川に恵まれた美しい土地で、ダコタ族にとっては聖地だったという。17 世紀後半からフランスなどヨーロッパ人が次々、この地にやってきて、領地を奪い合い、1825 年、合衆国がこの地にスネリング砦を建設したことから町の発展が始まった。砦は先住民に対抗するためではなく、フランスとイギリスとの争いに備えたものだった。



1856 年、米国政府がダコタ族から土地の購入を進め、入植者が増えた。1860 年ごろから豊かな水力を利用し、製材や製粉業が盛んに。やがて、ミネアポリスとシカゴ間に鉄道が敷かれ、まちは同河の両岸に広がった。小麦など穀物類の製粉所のほか織物、機械など 23 のビジネスが生まれた。1880 年ごろからは Mill City として知られ、全米の 14% の小麦粉を供給した。当時の繁栄を示す建造物などが Mill Ruin Park として保存されている。



文化

City of water、City of lakes と呼ばれるだけに、水を活かしたアウトドアライフが素晴らしい。川と湖を結ぶ公園道路がつながり、多数のピクニック場があり、ドライブウェイが整備されている。水泳、カヌー、ボート遊び、巨大な魚が捕れるフィッシングが楽しめる。ちなみにウオータースキーはミネソタで発明された。

ボートにはテーブル、ソファ、テレビ、日除けの屋根が供えられたものもあり、高層ビルを背景に、食事や景色を楽しむ。

冬には氷の上からのアイスフィッシング、スノーモービルなどを楽しめるが、5 か月も雪と氷に覆われ、氷点下数十度の日もあり、ジャスティンさんによると「とにかく寒い」。

にぎやかな祭りが催され、劇場がたくさんある。長く寒い冬が去った 5 月 1

日のメーデーは華やかで楽しい。みんな創造的な大きな人形を作ってまちをパレードする。ストーン・アーチ・フェスティバル、アプトン・アート・フェアズといったまつりが有名。

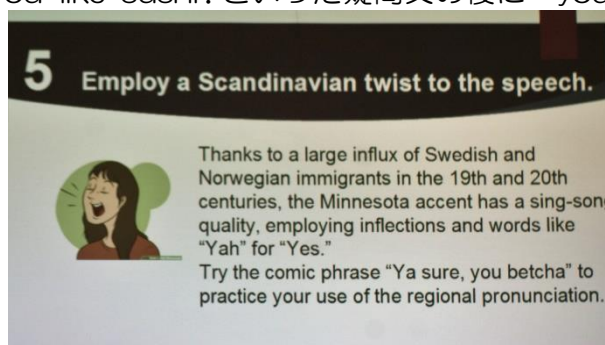
劇場の数はニューヨーク、シカゴに次いで多い。人口当たりの比率では2番目だ。ガスリー劇場は商業主義を優先するブローウェイと違って、文化の発展を重視してつくられた。子供のためのチルドレンズ・シアター・カンパニー、ステート・シアター、ジャングル劇場、人形劇場などがある。



ミネソタ訛

製材業が発達した黎明期のミネソタにはスウェーデン、ノルウェイ、ドイツなどからの移住者が多かったことなどから、ユニークな方言が生まれた。たとえばー

- oの音を長く伸ばし、強調する→ “Minnsota” は “Minenes-ohhh-da”
- lをYのように発音する
- rをrr的に強く言う→ “Oh, dear” が “Oo-ha. De-arr”
- 語尾を上げる→that’s interesting という場合、フレンドリーな感じを出すため質問する時のように interesting の語尾を上げる。
- Im going to→eye-mino 二つの言葉を一つにする
- What are you→What-cha Do you like sushi?といった疑問文の後に “you becha (bet)” と言う
- cola、soda →pop
- expensive→spendy
- How have you been→How you ben、can→kehn、cash→caish
- Do you want to come with me?
→Do you want to come with?
me を省略



• Minnesota nice；相手の言ったことを否定的に言う場合、婉曲な言い方をする。たとえば、食べ物辛いと思っても salty などと露骨に言わず、That’s different. また、not good とは決して言わず、not bad（本当は very bad）と表現。

ジャスティンさんによると多分、「We are shy」だから。Shy と言えば、人と話すとき、相手を正面から見ず、45度の角度で話す。来日した時、日本人の中にも同じ様に目をそらせて話す人がいて「似てるな」と感じたという。

Q&A

—ミネソタグッバイとは？

A:「そろそろお暇する時刻です」と言ってからも、なかなかお別れにならない。家族間でも友人間でもそうなる。また会話が始まってしまって一時間、みたいな事になったりする。気候が厳しいせいかも？（冬は車のエンジンの暖機運転、夏はカーエアコンとくに時間がかかる）。

—ミネアポリスは自然に恵まれ、人は暖かく、とても魅力的なのに、どうして日本に住むことにしたのか？

A: とてつもなく厳しい冬のせいです。10月に吹雪とか、真冬にはマイナス40度になることも。屋内で楽しめる事がいろいろ、発達したのもそのせいだと思う。劇場（特に子供向け



の人形劇) や音楽が人気なのも。私は、冬を逃れて日本に住んでいると言えます。2～3月のミネアポリスは雪解けのぬかるみで最悪。5月1日をにぎやかに祝うのも、待ち遠しい春がやってくるからだ。

—ミネソタナイスのいわれは？

A: 私も良く知らないが、やはり気候が厳しいせいで近隣との繋がりが大切（孤立すると危険）だとする背景があるので、互いに友好的になるためでは？スカンジナビアやスウェーデンなど厳冬地域からの移民の影響があるかも。

—劇場文化が盛んだが、シェイクスピアの文章を暗唱したりすることは？

A: ガスリーが最初に演じたのはハムレットでした。子供の頃から演劇を練習しますし、高校生の演劇はとても質が高い。個人的にはコメディが好きです。百人一首のような遊びは無い。crri bbage というゲームとか、チェッカーや色々なカードゲームは良くやった。劇、音楽、趣味、オサケ…。オサケはだめだよなー。

—ミネアポリスでホームステイした時、停電に見舞われ大変だったが、冬季に水道管が破裂することは？

A: 今はガス暖炉利用が主流で大丈夫。 竜巻も起きる土地だが、みんな地下室を持っている。そこが遊び場にもなる。

—方言（訛）を気にしますか？

A: いいえ、誇りにしています。音楽も幅広い種類があり、ポップディランの活躍した地でもありますし。

以上